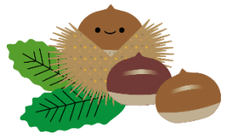
氷見交友会館だより

2021（令和3）年 11 月号

電話/FAX 0897-57-7248

「聴　く」



「生まれたときから目が見えない、出自の差別、これで苦しいと思ったことはあった。今は、人として正しく生きていくことに、臆することはない。この体をいただき、ここに生まれたことに、親や御先祖様に心の底から感謝をして、日々暮らしている。」こうおっしゃったこの方が、どのように生きてきたのか、未熟な私が容易に推測できるはずもありませんが、私は、このような人になりたいと思いました。その思いと裏表にあったのが、この人を苦しめた差別に対する強い嫌悪感（拒否反応、憎しみ、ぴったりくる言葉が分かりませんが、差別を受け入れられない感情）でした。これらが、心の深いところまで染み込んでいきました。同和教育地区別小地域懇談会（当時）で、差別につながる恐れのある言葉を聞くと、それに反応して発言をしていましたが、この人の言葉を聞いてから、私の言い方が、厳しくなっていたことを自覚しています。そんな中、ある集会所であった地区別小地域懇談会で、私の姿勢を変える発言と出会いました。

その年の懇談会は、意見が出やすいようにと、10問の質問に対して〇×で答え、それをもとに話し合うようにしていました。その質問の中に、障がいに対する差別について問うものがありました。実際、いつもより意見が多く、スムーズに出ていました。その問いに対し、足を投げ出すようにして座っていた高齢の男性が、差別があっていいんだ、差別されて強くなって生きていくんだ、という発言が集会所全体に響きました。大きな声だったので、参加者（30名くらい）全員に聞こえ、一斉にそちらを見ました。同じグループの参加者が、その発言した人に、それは差別を認める意見であることや、障がいのあることで差別を受け、辛い思いをしている人の立場を考えない発言であることなどを、次々といい、説得していました。私は、隣のグループから、その話合いを聞いていました。（というか、それ以外のグループの参加者は、それぞれの話合いを中断し、そのグループを注視し、話合いを傾聴していました。）その発言をした人は、自分の発言の問題性を指摘されたにもかかわらず、同じ発言をしました。先ほどより興奮し、怒った口調で、声もさらに大きくなりました。正論が感情論に負けそうです。私は、この人をどうしても、差別をなくしていく味方にしたいと思いました。これまでであれば、発言の差別性や問題を直球で指摘するところですが、それでは、この人はきっと、背を向けたままだろうと思い、いつもと違う方法を考えました。が、その人が立ち上がり、帰ろうとしていましたので、案が浮かばないまま、私は、そのグループに入っていき、その人に声を掛け、座ってもらいました。「先ほどから、おじいさんや皆さんの意見を聞いておりました。皆さんが言うことが私は正しいと思っていますし、それはおじいさんも皆さんの意見が正しいと思っているはずです。でも、差別されてもいい、と言い続けるのには、これまでに、そう言いたくなる何かが、あったんでしょう。その何かを教えてもらえませんか。」と言いました。その人が、思い出しながら、小声で「子どものころ、わしの足は壊疽になって手術をして切り取られることになったんじゃ。」と話し始めました。小声でしたが、あたりはしんと静まり返り、周りの人は一言漏らさず聞こうと耳を澄ませていました。緊迫した空気の中、話が続きました。「医者が切り取る手術をするというのに、母が、どうか切り取ることだけはやめてくれと泣いて頼んだんじゃ。」自分の足をさすりながら話を続けます。「医者は、しぶしぶ切断しないで悪いところだけをのける手術をした。それで脚は残ったが、曲げることができんようになった。この手も実は同じような手術をして、肩より高く上げることができんし、まっすぐ伸ばすこともできんのじゃ。国民学校の軍事訓練で、体操するとき、わしの曲がらん脚を曲げよ、伸びん手を伸ばせと言いながら脚や手を竹刀でしばくんじゃ。『壊疽の手術で脚は曲がりません。手はこれ以上伸びません。』と言うと、言い訳するなとまた叩いてくるんじゃ。わしは悔しくて悔しくてたまらんかった。いっつもじゃ。体操のときそうやって、いっつも、わしを叩くんじゃ。わしは、歯を食いしばって、悔しさを飲み込んで頑張って生きてきたんじゃ。差別されても、わしはこのやろう、いつか見ておれ、絶対に負けんぞ、と思って生きてきた。そうやってわしは強くなって今まで、生き抜いて来られたんじゃ。じゃから、差別があってもええんじゃ。」その人が曲がらない脚をさする手の甲に、涙が落ちていました。涙でぬれた手と、その手が愛おしくさすっている足を見ながら、私は、この人を、竹刀で叩いた人を、差別を、憎しみました。明らかに、この人も、同じ感情だったことは間違いないと思いました。しかし、このまま返すわけにはいきません。ふと、口から出た言葉が、「あなたにお孫さんはおりますか。」です。すると、その人は、明るい声で「おるよ。かわいくて、かわいくて、孫はわしの幸せじゃ。」と答えました。「そうですか、かわいいでしょうね。あなたが受けたようなことを、もし、仮に、そのお孫さんが受けても、たくましくなっていいと思いますか。」と私は、罪深いことを言いました。すると、怖い顔になり、「何を言うんじゃ。そんなこと、そんなこと絶対に許さん。あんな理不尽な思いを孫にさせてあまるか。そんなこと、絶対、許さん。」と大きな声で言いました。「許せないのが当然です。それが差別、許せないんです。だから、差別をなくすために、この学習会をしているんです。」と言うと、「分かった、来年もこの懇談会に来るけん。」と答えてくれました。懇談会の後二人残って、いろいろと話を聞きました。帰り際、私は、「今日のことを、いろいろな学習会で話をさせてもらいます。いいですね。」と了解を求めると、「それはやめてくれ、恥かしい。」と断られました。「そうですか。大切なことですから、話していいですね。」ともう一度お願いしました。「いや。」と再び断られました。

集会所の電気を消して、薄暗い土間で、「いやだと言われても私は話したいのでいいですか。」月の光を受けたその人の頭が小さく縦に動いたように見えました。「話させてもらいます。」と言う私の声に、やっぱり小さくうなずいてくれました。以上、曽我部研二でした。（館長）

第 1 回 健康教室　開催のご案内

日時：11 月 26 日(金)　10:30～11:30

内容：在宅介護～ヘルパーさんが伝える介護のコツ～

講師：いしづち苑（えん）　介護福祉士　伊藤 清子（きよこ） さん

会場：氷見交友会館　会議室

定員：20 名　**※申し込みが必要です。**

お申込み・お問い合わせは氷見交友会館（☎0897-57-7248）までご連絡ください。

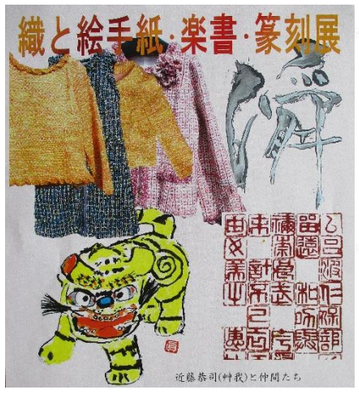
今後の状況により、中止、または延期となる場合があります。変更があった場合は、お申込みいただいた方にご連絡いたします。

※来館の際は、事前の検温、マスク着用と入り口での消毒をお願いしております。また、発熱、発熱がなくても体調が悪い方、緊急事態宣言地域等（まん延防止等重点措置地域を含む）からの帰県後 2 週間を経過していない方は、入館をご遠慮下さい。ご協力をよろしくお願いします。

感染症拡大防止対策により臨時休館となる場合、その間予定していた行事や講座ができなくなります。

織（おり）と絵手紙（えてがみ）・楽書（らくがき）・篆刻展（てんこくてん） のご案内

氷見交友会館で制作活動をしている教室（講師：近藤（こんどう）恭司（やすし）先生）の作品展が、佐伯記念館で開催（かいさい）されます。皆さま、ぜひご鑑賞（かんしょう）ください。



【期間】11 月 23 日(火・祝)～12 月 7 日(火)

※新型コロナウイルス感染拡大の状況により、会期が変更となる場合があります。

【場所】西条市佐伯記念館・郷土資料館（丹原総合支所東となり）

〒791-0508 西条市丹原町池田 1711-1　☎0898-68-4610

開館時間　9:00 ～ 17:00

休 館 日　11 月 24 日(水)・11 月 29 日(月)・12 月 6 日(月)

11月の行事予定

日	月	火	水	木	金	土
	1 生き生き健康体操 13:00～ 歌謡教室 13:30～15:30 楽書教室 13:00～16:00	2	3 休館日 ● 文化の日 	4	5 石鎚クラブ 13:30～15:00	6 休館日
7 休館日	8	9 健康管理巡回相談 10:00～12:00 裂織サークル 13:00～16:00	10 人権を考える日 ひまわり会 10:00～11:00 絵手紙教室 13:30～15:30	11 茶道教室 13:30～15:30	12 書道教室 9:30～11:30 石鎚クラブ 13:30～15:00 華道教室 14:00～16:00	13 休館日
14 休館日 老友会	15 歌謡教室 13:00～15:00 楽書教室 13:00～16:00	16 裂織サークル 13:00～16:00	17 絵手紙教室 13:30～15:30	18	19 石鎚クラブ 13:30～15:00	20 休館日
21 休館日	22	23 休館日 ● 勤労感謝の日 	24 ひまわり会 10:00～11:00	25 茶道教室 13:30～15:30	26 書道教室 9:30～10:30 第 1 回健康教室 10:30～11:30 石鎚クラブ 13:30～15:00 華道教室 14:00～16:00	27 休館日
28 休館日	29	30				

おしらせ　10/1(金)から当面の間、会館の利用を西条市民に限定しています。ご了承ください。
（10/18 現在。感染状況により変更の可能性あり。）

西条市氷見交友会館

住　所：〒793-0072　西条市氷見乙 1722 番地

TEL・FAX：0897－57－7248

Eメール：himikoyukaikan@saijo-city.jp

開館時間：9:00～17:00（月～金）

※ 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始は閉館しています。

氷見交友会館では、人権、福祉、健康、職業、生活、教育等の各種相談事業を随時行っています。電話、訪問での相談にも対応いたします。

お気軽にご相談ください